



# 教育フロンティア

frontiers of the educational world



## 防災対策 防災教育 防災ずきん

多くの保護者が必要と感じた



災害時の落下物や火・熱から  
子どもを守る！



とてもコンパクトで  
取り出し簡単

座布団や背もたれクッションと  
しても使えるタイプもあります

地震が発生したとき、一般的には、「初期の微小な揺れの際には机の下などに身を隠したり、座布団や雑誌、ヘルメットなどで頭を保護する」ことが重要とされています。

近年では、防災に対する意識の高まりから、災害時に備えた様々な対策がされるようになってきました。今、学校では子ども達の身を守るものの一つとして、防災ずきんが選ばれています。2010年に国民生活センターが実施したアンケートでは、約8割の保護者が防災ずきんが必要と感じています。さらに、防災ずきんの性能では、約6割の保護者が第一に「落下物に対する防御」、次に「火や熱に対する防御」を望んでいました。

また、オープンスペース型の教室が増えてきており、教室と廊下の分離にロッカーや仕切り板を使う開放的な教室の構造となっていることから、「震災のあった際に本が落ちてきたり、ロッカーが倒れてくるおそれがあるために防災ずきんは必要だ」と心配する保護者もいました。

そういった要望もあり、衝撃吸収性や防災性能にすぐれた防災ずきんが開発されています。机の横のフックに掛けるものや、背もたれに掛けるもの、または、通常時は座布団の代わりになるものなど、さまざまです。日常の学校生活で、身近なところに備え付けられ、すぐに子ども達を保護できる防災ずきんは、ますます必要性が高まっています。

### 山形県教育委員会が 防災教育「指導の手引き」を作成しました

防災教育推進の視点（防災教育「指導の手引き」より）  
(1) 自らの危険を予測し、回避する能力を高める防災教育の推進

- ① 周りの状況に応じ、自らの命を守り抜くため「主体的に行動する態度」の育成
- ② 防災教育の基礎となる基本的な知識に関する指導充実

(2) 支援者としての視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高める防災教育の推進

防災教育推進の視点を踏まえ総合的・体系的な防災教育を行うことにより、一人一人の防災対応能力の向上を図り、防災に貢献できる多様な人材を育成することを目標とします。（防災教育「指導の手引き」小学校編より）

指導の手引きは、児童生徒の発達段階に応じて小学校編、中学校編、高等学校編と分けて作成してあります。

防災教育にはこの本がオススメ

『72時間生きぬくための101の方法』

出版社：童心社 定価：3,675円

- ◆心臓マッサージの方法は？
  - ◆靴がなくて歩けないときは、5分で靴がわり  
のものを作ってから逃げる！
- など、いざというときのために役立つ本です。



お問い合わせは山形教育用品までおねがいします